

# 堂山館跡(入間郡越生町)

児玉雲太夫の居館跡

築城年代: 鎌倉時代、築城者: 児玉雲太夫

前方が堂山館跡とされる最勝寺





もと山門前の三差路にあった六地藏



山門/手前に説明板が立っている



## 「最勝寺縁起」

当山は建久三年（一一九三年）源頼朝公が則使大名であつた家来の児玉雲太夫に命じて創建し領地を与え祈願所とした。第一世住職は高僧頼榮和上で佛法興隆に尽くし、その後天文年間に戦禍にあい、堂塔伽藍が灰となつた。しかし現存の表門と大御堂は火災を免れて、四天王尊、持国天、増長天、広目天、多聞天が祭られ鎮護国家の道場として栄えたと伝わる。

大御堂の名称は当時將軍直創のお堂のことを言つたのである。又、表門の正面見込みの龍の彫刻は左甚五郎の作と言われ浄麗莊嚴を極めたといわれ、後に第十六世登観和上が伽藍を再興（弘治二年一五五六年）したが、明治四十一年四月二十一日に又々火災に遭い、本堂、庫裏等焦土と化したが大正十二年中興開山第二十八世隆全和上が伽藍その他を再興し現存に至つてゐる。

本尊は十一面観世音で修羅界（争いのある世の中）を濟度（救う）する佛様である。又、弁慶の引き鐘（現存西国三井寺）の元存の寺とも伝承され、昭和五十一年六月に当山第二十九世隆聖並び壇信徒各位の協力により往時をしのび古来より伝承される地名入り童歌を梵鐘に刻み鐘楼及び梵鐘を再興し夕べの鐘の音を告げている。

鐘樓



再興された梵鐘



本堂



換気設備であろうか



## 最勝寺

越生町堂山

最勝寺は建久四年（一一九三）、源頼朝が、崇敬していた天台別院慈光寺（ときがわ町）参詣路の要所に位置する当地に、家来の児玉雲太夫に命じて建立させたと伝えられている。最勝寺東方の字堀之内に児玉雲太夫の墓と伝えられる五輪塔があり、塔下から中世常滑焼の蔵骨器が見つかっている。

江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』に「青龍山と号す、新義真言宗、今市村法恩寺の末山なり、往古は天台宗にて西照寺と書きたるよし」と、かつて堀之内にあった大御堂の西方に当たるため西照寺と称し、東方には東福寺という寺があつたことが記されている。堂山の地名の起こりとされる大御堂は現在は最勝寺境内にあり、平安仏の木造釈迦如来像と四天王像、鎌倉仏の木造阿弥陀如来像が安置されている。

元禄十三年（一七〇〇）建立の山門のたもとにある、大日如来と六地藏が彫られた石仏は、近くの辻から移設されたもので、「右志かう／左あまてら」の文字が慈光寺と子の権現（通称あまてら）の方角を示している。

また、朝夕の時を告げている梵鐘は昭和五十一年の铸造で、「どこ堂山の最勝寺」で始まる、近隣の地名を織り込んだ、この地に古くから伝わる俚謡が刻まれている。

平成二十五年三月

越生町教育委員会

ここにも説明板がある



# 「福禄寿」

福禄寿は最大の幸福の神で福（しあわせ）禄（財貨）寿命（長寿）の三徳を施与してくれると伝えられ家内安全、身上安全、商売繁盛、交通安全の御利益があると言われるれ広く民衆に信仰され、短身長頭で髭多く経巻を結びつけた杖をたずさえている福神である。

古来よりインド、中国、日本で信仰され、中国では慈悲の本誓より出る寿星（南極星の化身）として広く信仰されてきたが、当山でも開運、厄除招福の福神として冬至には、密教独特の秘法により幸福に安楽に過ごせるよう星祭りの護摩供の祈願が修行される。

これは大御堂



こんなものも



「医聖 田代三喜」の説明板が立っていた



## 医聖 田代三喜

田代三喜は、寛正六年（一四六五）四月八日、現在の越生町大字古池田代に生まれた。祖先は、伊豆の田代信綱といわれ、その子孫は代々医术を業とし、父兼綱の代になり武蔵に移った。

十五歳の時、臨濟宗の寺に入って僧となり学問を修め、長享元年（一四八七）二十三歳で明国に渡り、李・朱医学など、当時の進んだ医学を修得した。その間十二年、その頃すでに日本から明国に渡り、名医として知られていた月湖について学んだ。明応七年（一四九八）多くの医学書を携えて帰国した。

初め鎌倉の円覚寺内江春庵に居を定めたが後に足利成氏（古河公方）の招きにより、永正六年（一五〇九）古河に移り成氏の主治医となった。古河に居ること数年にして、武蔵に帰り、以来関東一円を往来して医療を行い多くの庶民を病苦から救って、医聖と仰がれた。

享祿四年（一五三一）二十五歳の曲直瀬道三は、三喜に会って医学を志し、その門下に入った。三喜は、道三をよき後継者として一切を傾けて指導し、死期近い病床でなお口述を続けた。道三は感動し、硯に落ちる涙で墨をすって記録したという「涙墨紙」が残っている。

本邦後世派医学の開祖であり、医聖と仰がれていたが、天文十三年（一五四四）四月十五日に病を得て没した。年七十九。

さまざまな石造物があった







参考ホームページ

<http://jvokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/153douyama/douyama.html>

[http://gi001.gokenin.com/tanbou/11\\_saitama/02\\_iruma/012\\_ogose/ogose.html](http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/02_iruma/012_ogose/ogose.html)

<http://ckk12850.exblog.jp/4453940/>

[http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/kodamaunndayuu\\_vakata.html](http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/kodamaunndayuu_vakata.html)



